

三重県経済の現状と見通し＜2026年9月＞

1. 景気判断 一覧表

部門	個別項目	水準評価 ※1		基調判断(前月比較)※2
				詳細
総括判断	景気の現状			持ち直しの動きがみられる
				企業活動などを中心に、持ち直しの動きがみられる。
家計部門	個人消費			減速傾向にある
				勤労者世帯・消費支出は、7か月連続の前年比減少
	住宅投資			持ち直しの兆し
				住宅着工戸数は、4か月連続の前年比増加
	観光			回復が一服
				外国人宿泊者数は、3か月連続の前年比減少
企業部門	雇用・所得			持ち直し傾向が一服
				有効求人倍率(季節調整値)は、5か月ぶりの低下
	企業活動			拡大している
				鉱工業生産指数は、11か月連続の前年比上昇
	企業倒産			悪化しつつある
海外部門				倒産件数は、2か月連続の前年比減少
	設備投資			足踏み
				民間非居住建築物着工面積は、4か月連続の前年比減少
	輸出			持ち直しつつある
				四日市港通関輸出額は、7か月連続の前年比増加
公共部門	公共投資			持ち直しつつある
				公共工事請負金額は、2か月ぶりの減少
その他	物価			伸びが鈍化している
				津市消費者物価指数(生鮮食品を除く)は、55か月連続の前年比上昇

当面の見通し	物価高や世界経済の不透明感から、景気持ち直しのテンポは弱まる見通し
	個人消費の回復が期待される一方、中東情勢の不安定化を背景としたエネルギー価格の高騰など世界経済を巡る不透明感は強く、景気持ち直しのテンポは弱まる見通し。

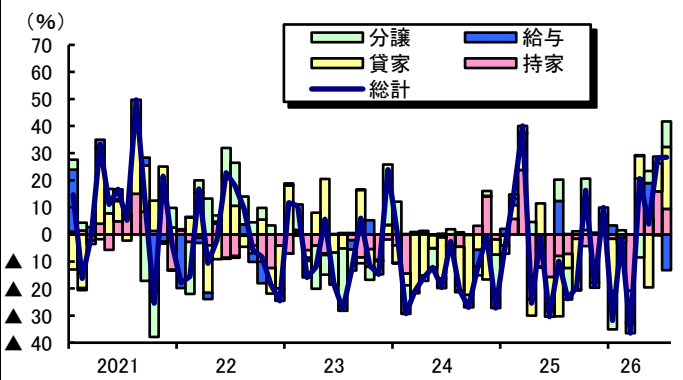
※1「水準評価」は、景気全体ならびに個別項目の水準について5段階で判断するもので、
:晴、:晴～曇、:曇、:曇～雨、:雨、を示す。
※2「基調判断(前月比較)」は、基調判断の表現を前月と比べたもので、
:上方修正、:据え置き、:下方修正を示す。
(例えば、「回復」→「減速」となれば下方修正、「回復」→「回復」なら据え置き、となる)
したがって、矢印は景気全体ならびに個別項目の方向感を示すものではない。
個別項目の見通しは、特に表記がない場合には先行き半年間程度の見通しを示す。

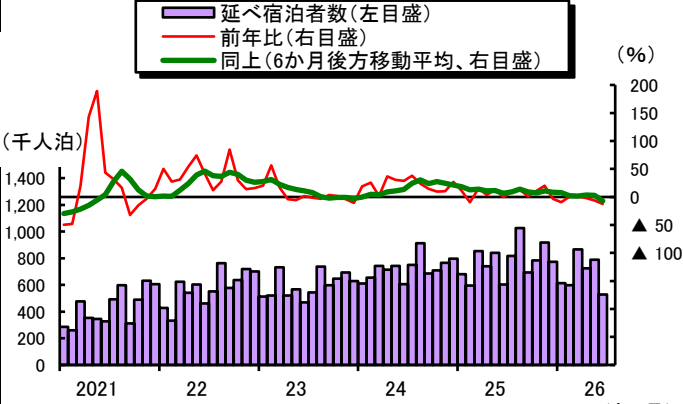
お問い合わせ先

三十三総研 調査部 中野
電話:059-354-7102
Mail:33ir@33bank.co.jp

2. 個別部門の動向:家計部門

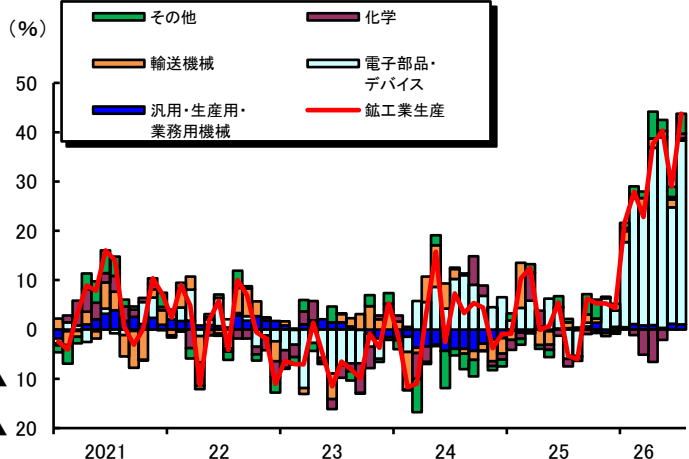
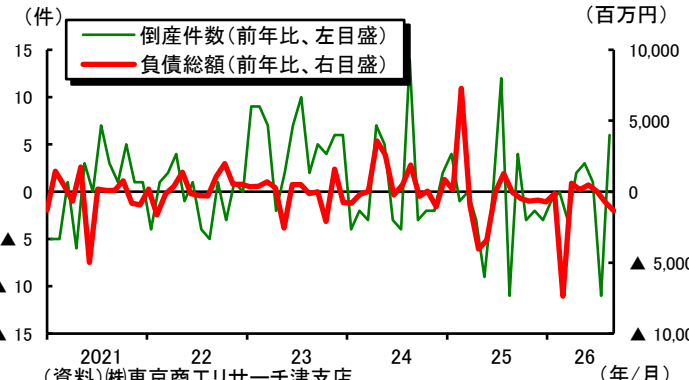
個人消費	水準評価		☀️☁️		
	基調判断	前月比較	⇒	詳細	減速傾向にある
「現状」 ○個人消費は、減速傾向にある。 ○個人消費の動向を支出者側からみると、7月の勤労者世帯消費支出(津市)は前年比▲14.0%と7 か月連続の減少(図表1)。内訳をみると、教育(同+49.7%)が増加した一方、交通・通信(同▲37.5%)が2か月連続、家具・家事用品(同▲36.6%)が3か月連続で減少し、全体を押し下げ。 ○個人消費の動向を販売者側からみると、7月の大型小売店販売額(百貨店とスーパーの合計額)は、全店ベースが前年比+0.8%と2か月ぶりに増加。既存店ベースも同+0.5%と2か月ぶりの増加(図表2)。 全店ベースを商品別にみると、飲食料品(同+0.5%)が2か月ぶりに増加し、全体を押し上げ。 ○8月の新車乗用車販売台数(含む軽)は、4,956台(前年比▲2.2%)となり、前年比で5か月ぶりの減少(図表3)。車種別にみると、普通車(同+3.3%)は3か月連続、小型車(同+9.6%)は9か月連続で増加した一方、軽乗用車(同▲13.1%)は4か月ぶりに減少し、全体を押し下げ。 「見通し」 ○東海地域の現状判断DI(内閣府「景気ウォッチャー調査」)をみると、8月の家計部門の水準は47.7と好不況の分かれ目となる50を8か月連続で下回った。2〜3か月先の先行きに対する判断DIについては、48.6と前月(45.6)から改善したもの、好不況の分かれ目の50を6か月連続で下回った。所得環境の改善や株高による資産効果を受け、個人消費は回復する見通し。もっとも、原材料・エネルギー価格高騰に起因するコスト上昇が時間差で波及し、様々な品目への値上げ圧力が続くことで、消費意欲を下押しする可能性には注意が必要。					
◆7月 勤労者世帯・消費支出 ○ 255千円 前年比 ▲14.0% (7か月連続の減少) ◆7月 大型小売店販売額 ○ 全店 前年比 +0.8% (2か月ぶりの増加) ○ 既存店 前年比 +0.5% (2か月ぶりの増加) ◆8月 新車乗用車販売台数<含む軽> ○ 4,956台 前年比 ▲2.2% (5か月ぶりの減少) ・普通車 2,081台 前年比 +3.3% (3か月連続の増加) ・小型車 1,071台 前年比 +9.6% (9か月連続の増加) ・軽乗用車 1,804台 前年比 ▲13.1% (4か月ぶりの減少)					
図表1		津市消費支出等<前年比>			
		(資料)総務省「家計調査」 (年/月)			
図表2		大型小売店販売額<前年比>			
		(資料)経済産業省「商業動態統計」 (年/月)			
図表3		新車乗用車販売台数<前年比>			
		(資料)日本自動車販売協会連合会三重県支部「新車登録台数」、全国軽自動車協会連合会三重事務所「銘柄・形状別新車月報」 (年/月)			

住宅投資	水準評価				
	基調判断	前月比較	⇒	詳細	持ち直しの兆し
《現状》 ○住宅投資は、持ち直しの兆し。 ○7月の住宅着工戸数は、847戸（前年比＋28.5％）となり、4か月連続の増加（図表4）。利用関係別にみると、給与住宅（同▲90.6％）が2か月連続で減少したものの、貸家（同＋130.2％）で2か月連続、持家（同＋20.5％）が4か月連続、分譲住宅（同＋43.1％）が3か月連続で増加し、全体を押し上げ。 《見通し》 ○先行きは資材価格や人件費の上昇などに起因する住宅価格の上昇、日銀の政策金利の引き上げを受けた住宅ローン金利の上昇懸念を背景に、住宅投資は弱い動きとなる見通し。					
◆7月 住宅着工戸数 ○ 847戸 前年比 ＋28.5％ （4か月連続の増加） ----- ・持家 365戸 前年比 ＋20.5％ （4か月連続の増加） ・貸家 267戸 前年比 ＋130.2％ （2か月連続の増加） ・給与住宅 9戸 前年比 ▲90.6％ （2か月連続の減少） ・分譲住宅 206戸 前年比 ＋43.1％ （3か月連続の増加）					
図表4 新設住宅着工戸数＜前年比＞  （資料）国土交通省「建築着工統計」（年/月）					

観光	水準評価				
	基調判断	前月比較	↘	詳細	回復が一服
《現状》 ○観光は、回復が一服している。 ○6月の三重県内施設延べ宿泊者数は、530千人泊（前年比▲12.3％）となり、3か月連続の減少（図表5）。外国人宿泊者数は24千人泊（同▲23.9％）と、3か月連続の減少。 《見通し》 ○三重県は、2035年に外国人宿泊者数を100万人とする目標を掲げた「みえインバウンド誘客計画」を策定。計画では、「観光インフラの充実」「戦略的なマーケティング」「取り組みの充実・継続」の3つを基本戦略とし、台湾、タイ、シンガポール、フランス、ドイツ、米国を重点市場に、インドネシアとインドを開拓市場に設定。					
◆6月 県内施設延べ宿泊者数 ○ 530千人泊 前年比 ▲12.3％ （3か月連続の減少） ----- ・外国人 24千人泊 前年比 ▲23.9％ （3か月連続の減少）					
図表5 三重県内施設延べ宿泊者数  （資料）国土交通省観光庁「宿泊旅行統計調査」（年/月）					

○8月3日に連合三重が公表した2026年春闘第5次集計(最終)結果によると、定期昇給相当込み賃上げ率は5.19%と昨年に引き続き高めの伸びを維持。所得については、賃上げノルムの広がりや最低賃金の上昇、人手不足感の深刻化を受けて今後も幅広い業種で賃金上昇が期待される。

3. 個別部門の動向：企業部門

企業活動	水準評価		☀		
	基調判断	前月比較	⇒	詳細	拡大している
「現状」 ○企業の生産活動は、拡大している。 ○7月の鉱工業生産指数は、前年比＋43.8％と11か月連続の上昇(図表9)。業種別にみると、旺盛な半導体関連需要を背景に、電子部品・デバイス工業(同＋237.7％)が9か月連続で上昇し、全体を押し上げ。このほか、汎用・生産用・業務用機械工業(同＋10.7％)や化学工業(同＋6.6％)等も上昇。 「見通し」 ○2026年6月に公表された世界半導体市場統計によれば、2026年度の半導体世界市場は前年比約＋90％と過去最高を大きく上回る水準で成長する見込み。数年先までの供給を望む声が増えたことを背景にキオクシアの長期契約が増加するなど、需要が旺盛な半導体を中心に、先行きの生産は拡大が続く見通し。 ○シンフォニアテクノロジー(東京都港区)は伊勢市の伊勢製作所内に約120億円を投資して新たな工場を建設し、航空・防衛分野の需要増加に向けて航空宇宙機器の生産体制を強化する。2027年1月に稼働し、月間生産能力を250億円から400億円に引き上げる。					
◆7月 鉱工業生産指数<2020年=100> ○ 146.2 前年比 ＋43.8％ (11か月連続の上昇) ・汎用・生産用・業務用機械工業 前年比 ＋10.7％ (8か月連続の上昇) ・電子部品・デバイス工業 前年比 ＋237.7％ (9か月連続の上昇) ・輸送機械工業 前年比 ＋2.1％ (8か月連続の上昇) ・化学工業 前年比 ＋6.6％ (2か月連続の上昇)			図表9 鉱工業生産指数<前年比>  (資料)三重県戦略企画部統計課「鉱工業生産指数」 (年/月)		
企業倒産	水準評価		☁		
	基調判断	前月比較	⇒	詳細	悪化しつつある
「現状」 ○企業倒産は、悪化しつつある。 ○8月の県下倒産状況(負債総額1,000万円以上)をみると、件数は13件(前年比＋6件)と2か月ぶりの増加。負債総額は640百万円(前年差▲1,348百万円)と2か月連続の減少(図表10)。 「見通し」 ○中小企業の経営環境は、人件費の上昇や、中東情勢の不安定化に伴うエネルギー価格の高騰や原材料不足、金利の上昇等を受けて厳しさを増しており、企業倒産は悪化が続く懸念も。					
◆8月 企業倒産 ○ 倒産件数 13件 前年比 ＋6件 (2か月ぶりの増加) ○ 負債総額 640百万円 前年比 ▲1,348百万円 (2か月連続の減少)			図表10 倒産件数・負債総額<負債総額1,000万円以上>  (資料)㈱東京商工リサーチ津支店 (年/月)		

設備投資関連指標＜前年比＞

四日市港通関輸出額＜前年比＞

5. 個別部門の動向：公共部門

公共投資	水準評価				
	基調判断	前月比較	⇒	詳細	持ち直しつつある
《現状》 ○公共投資は、持ち直しつつある。 ○8月の公共工事請負状況をみると、請負件数は311件(前年比▲11.6%)と2か月ぶりの減少。請負金額は178億円(同▲7.5%)と9か月ぶりの減少(図表13)。請負金額を発注者別にみると、県(同+26.7%)などが増加した一方、国(同▲45.9%)、独立行政法人等(同▲80.8%)、市町(同▲20.8%)が減少。 《見通し》 ○6月30日、三重県の令和8年度6月補正予算が成立。中東情勢の変化に伴う影響が懸念される県内の事業者を支援するほか、エネルギー価格の高騰対策等のための費用として一般会計に14.8億円を追加する。					
◆8月 公共投資 ○公共工事請負件数 311件 前年比 ▲11.6% (2か月ぶりの減少) ○公共工事請負金額 178億円 前年比 ▲7.5% (9か月ぶりの減少)			図表13 公共工事請負金額 (億円) (年/月) (資料) 東日本建設業保証㈱三重支店		

6. 個別部門の動向：その他

物価	水準評価				
	基調判断	前月比較	⇒	詳細	伸びが鈍化している
《現状》 ○物価は、伸びが鈍化している。 ○8月の津市消費者物価指数(生鮮食品を除く)は前年比+1.9%と55か月連続の上昇(図表14)。住居費(同▲1.5%)は低下傾向にあるものの、生鮮食品を除く食料(同+4.2%)等が押し上げに寄与。 《見通し》 ○米などの食料品価格上昇の影響が減衰していくもとで消費者物価(生鮮食品を除く)は低下傾向で推移していく見通し。もっとも、原油価格の高騰が時間差で波及していく可能性があり、今後の物価動向には注意が必要。					
◆8月 消費者物価指数<生鮮食品を除く、2025年=100> ○102.2 前年比 +1.9% (55か月連続の上昇) ・食料(生鮮食品を除く) 前年比 +4.2% (61か月連続の上昇) ・住居 前年比 ▲1.5% (11か月連続の下落) ・光熱・水道 前年比 +0.2% (3か月連続の上昇) ・交通・通信 前年比 +2.3% (22か月連続の上昇) ・教養娯楽 前年比 +3.4% (44か月連続の上昇)			図表14 津市消費者物価指数<前年比> (%) (年/月) (資料) 総務省「消費者物価指数」		

県内経済



トピックス

(2026年8月)

1. 三重県四日市市 真夏や夜間に自動運転バスの実証実験を実施

- 8月5日、自動運転バスを真夏や夜間に走らせる実証実験が四日市市中心部で開始。近鉄四日市駅東からJR四日市駅間の中央通り800メートルを往復。10月4日までの2か月間の運行を予定。
- 今回の実証実験の目的は、自動運転技術そのものの検証にとどまらず、近鉄四日市駅からJR四日市駅を結ぶ中央通りにおける移動利便性を高め、人がまちなかを回遊し、立ち寄りたくなる環境づくりにつなげること。
- 担当者は「飲食店や職場から駅に向かう人が乗ることを見込んでいる」と発言。

2. 青い胡蝶蘭、世界初の開発生産施設が完成

- 8月26日、自然界では咲かない青い胡蝶蘭の開発と生産を担う新施設が石原産業の四日市工場に完成。今後は新品種の研究開発から生産までを一貫して管理し、希少性の高い胡蝶蘭を出荷予定。
- 竣工式では、関係者ら30人が神事や見学会に参加。施設は2億円かけて、281平方メートルの培養室と264平方メートルの温室の2棟を建設。
- 同社バイオサイエンス事業本部の秋吉信行本部長は「国内の胡蝶蘭市場は年間500億円で、このうち青色胡蝶蘭で数%を取っていきたい。利益を出せる事業と見込んでいる。」と発言。

3. 三重県庁前公園がリニューアル 防災機能強化

- 8月26日、津市栄町の三重県営都市公園「県庁前公園」のリニューアル工事が完了しオープン。災害時の炊き出しやトイレに活用する防災設備を新たに整備、地域の防災機能を向上。
- 公園内の5か所に災害時に炊き出しで活用できるかまどベンチを設置。公園内には下水道につながるマンホールがあり、その上にテントを立てて簡易的なトイレとして使えるマンホールトイレも5基準備。屋根付きの休憩所も設け、発災時には傷病者の待機所として使う計画。
- 一見勝之知事は「くみ取り不要のトイレなので使い勝手がいい。災害時には避難者に使ってもらほか、県職員も利用することで防災業務を継続できる。」と発言。

以上

景 気 指 標

三十三総研
2026/9/30

<三重県>

(注)()内は前年(同期(月))比 < >内は季節調整済前期(月)比

	2024 年	2025 年	2025年		2026年		2026年				
			7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	4月	5月	6月	7月	7月
大型小売店販売額(全店)	(0.7)	(2.3)	(2.2)	(2.3)	(2.0)	(0.9)	(1.4)	(3.8)	(▲ 2.4)	(0.8)	
同 (既存店)	(1.1)	(1.5)	(1.0)	(0.8)	(0.3)	(0.2)	(▲ 0.2)	(3.5)	(▲ 2.6)	(0.5)	
新車販売台数(軽を除く、台)	54,634 (▲ 0.3)	53,830 (▲ 1.5)	12,917 (▲ 3.4)	13,096 (0.2)	14,350 (▲ 6.2)	13,630 (15.1)	4,903 (31.4)	3,692 (1.5)	5,056 (12.5)	4,997 (8.3)	3,593 (4.6)
うち乗用車販売台数(台)	48,294 (▲ 0.4)	47,663 (▲ 1.3)	11,421 (▲ 3.1)	11,491 (▲ 2.2)	12,750 (▲ 7.0)	12,245 (14.9)	4,389 (29.9)	3,295 (2.1)	4,561 (12.6)	4,468 (8.9)	3,152 (5.3)
新車軽自動車販売台数(台)	34,947 (▲ 12.0)	37,882 (8.4)	9,482 (▲ 1.7)	9,478 (6.4)	10,702 (1.7)	8,539 (1.6)	2,637 (▲ 6.4)	2,685 (3.5)	3,217 (7.5)	3,210 (1.4)	2,318 (▲ 10.2)
うち乗用車販売台数(台)	27,595 (▲ 11.1)	30,379 (10.1)	7,506 (▲ 1.9)	7,498 (8.4)	8,596 (▲ 2.0)	6,696 (1.4)	2,079 (▲ 6.5)	2,082 (1.7)	2,535 (8.7)	2,574 (6.7)	1,804 (▲ 13.1)
新設住宅着工戸数(戸)	7,751 (▲ 16.0)	7,342 (▲ 5.3)	1,727 (▲ 17.6)	1,839 (2.0)	1,620 (▲ 25.8)	1,847 (15.9)	549 (20.7)	695 (3.9)	603 (28.3)	847 (28.5)	
県内施設延べ宿泊者数(千人泊)	8,692 (21.1)	9,329 (7.3)	2,539 (8.0)	2,477 (9.0)	2,078 (▲ 2.4)	2,043 (▲ 6.5)	725 (▲ 2.1)	789 (▲ 6.1)	529 (▲ 12.3)		
有効求人倍率(季調済)	1.17	1.16	1.16	1.18	1.15	1.20	1.17	1.20	1.22	1.19	
新規求人倍率(季調済)	1.95	2.00	2.02	1.94	1.91	2.01	1.96	2.07	1.99	2.03	
新規求人数(学卒・パート除く、人)	74,467 (▲ 5.6)	76,049 (2.1)	19,011 (3.7)	19,511 (6.1)	19,437 (0.2)	19,108 (5.4)	6,833 (5.1)	5,966 (2.4)	6,309 (8.7)	6,925 (1.3)	
名目賃金指数(調査産業計)	(4.5)	(0.1)	(4.1)	(2.2)	(4.7)	(8.0)	(5.4)	(5.1)	(11.3)		
実質賃金指数(同)	(1.3)	(▲ 0.2)	(0.9)	(▲ 0.6)	(3.3)	(6.2)	(4.2)	(3.5)	(8.9)		
所定外労働時間(同)	(2.2)	(3.9)	(2.6)	(1.5)	(5.7)	(6.9)	(4.6)	(7.9)	(8.4)		
常用雇用指数(同)	(1.9)	(0.1)	(0.3)	(0.3)	(▲ 0.7)	(0.3)	(0.1)	(0.1)	(0.7)		
鉱工業生産指数	(0.2)	(3.1)	(▲ 1.6)	(5.0)	(24.1)	(35.5)	(37.6)	(40.3)	(28.9)	(43.8)	
	-		<▲ 5.2>	< 4.6>	< 18.6>	< 15.6>	< 10.8>	< 18.1>	<▲ 20.1>	< 6.1>	
生産者製品在庫指数	(▲ 8.9)	(5.5)	(7.0)	(3.5)	(1.6)	(▲ 13.2)	(▲ 4.4)	(▲ 15.1)	(▲ 19.0)	(▲ 9.1)	
	-		<▲ 1.4>	<▲ 2.8>	<▲ 3.0>	<▲ 6.4>	<▲ 1.2>	<▲ 3.4>	<▲ 8.3>	< 11.5>	
企業倒産件数(件)	135	123	43	28	29	25	9	6	10	13	13
(前年同期(月)比)(件)	(5)	(▲ 12)	(5)	(▲ 8)	(▲ 4)	(6)	(2)	(3)	(1)	(▲ 11)	(6)
民間非居住建築物着工床面積(千㎡)	574 (3.8)	698 (21.7)	305 (66.1)	72 (▲ 46.7)	108 (16.2)	107 (▲ 53.0)	51 (▲ 49.0)	26 (▲ 54.8)	31 (▲ 57.0)	21 (▲ 35.4)	
県内外国貿易 純輸出(百万円)	▲ 1,294,042	▲ 1,264,040	▲ 227,417	▲ 279,253	▲ 229,752	▲ 264,114	▲ 54,630	▲ 105,425	▲ 104,239	▲ 187,690	▲ 141,107
輸出(百万円)	1,133,799 (0.8)	1,153,636 (1.7)	269,425 (▲ 1.2)	297,963 (▲ 2.6)	305,255 (13.3)	313,450 (15.7)	122,820 (29.4)	86,809 (13.3)	103,820 (4.5)	123,082 (21.3)	104,742 (42.6)
四日市港 輸出(百万円)	1,091,240 (1.4)	1,111,102 (1.8)	245,955 (▲ 8.0)	286,433 (▲ 4.7)	260,937 (6.6)	287,468 (16.3)	97,437 (17.3)	86,683 (13.1)	103,348 (18.0)	109,614 (21.9)	104,705 (42.6)
輸入(百万円)	2,427,841 (▲ 0.9)	2,417,676 (▲ 0.4)	496,842 (▲ 23.8)	577,215 (▲ 6.9)	535,007 (▲ 14.3)	577,563 (17.2)	177,450 (▲ 17.7)	192,054 (41.0)	208,059 (47.4)	310,772 (117.2)	245,849 (47.4)
公共工事請負金額(億円)	2,004 (8.7)	2,105 (5.1)	687 (18.6)	336 (▲ 1.0)	467 (61.2)	1,024 (29.3)	572 (44.3)	207 (37.3)	245 (0.0)	277 (1.2)	178 (▲ 7.5)
津市消費者物価指数	(2.5)	(0.3)	(2.9)	(2.4)	(1.2)	(1.4)	(1.0)	(1.5)	(1.7)	(2.0)	(1.9)
同 (除く生鮮)	(2.2)	(0.2)	(2.8)	(2.5)	(1.5)	(1.3)	(0.9)	(1.4)	(1.7)	(1.8)	(1.9)

<東海3県(三重・愛知・岐阜)>

	2024 年	2025 年	2025年		2026年		2026年				
			7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	4月	5月	6月	7月	8月
大型小売店販売額(全店)	(2.7)	(2.5)	(2.3)	(3.9)	(2.6)	(▲ 0.2)	(▲ 0.3)	(3.0)	(▲ 3.4)	(▲ 1.8)	
同 (既存店)	(3.2)	(2.4)	(1.9)	(3.3)	(2.7)	(1.6)	(1.2)	(4.8)	(▲ 1.5)	(0.3)	
新設住宅着工戸数(戸)	72,757 (▲ 1.0)	66,986 (▲ 7.9)	17,478 (▲ 5.9)	17,294 (▲ 3.3)	15,978 (▲ 13.8)	17,313 (26.7)	5,947 (50.8)	5,662 (28.9)	5,704 (7.0)	5,813 (▲ 5.7)	
有効求人倍率(季調済)	1.31	1.28	1.28	1.26	1.24	1.25	1.24	1.26	1.26	1.26	
新規求人倍率(季調済)	2.35	2.33	2.30	2.25	2.22	2.29	2.27	2.35	2.26	2.33	
鉱工業生産指数	(▲ 2.8)	(2.0)	(▲ 0.4)	(▲ 0.8)	(4.8)	(11.4)	(8.9)	(11.3)	(13.4)	(13.8)	
	-	-	<▲ 0.8>	< 1.3>	< 5.6>	< 5.2>	< 2.0>	< 9.8>	<▲ 7.3>	< 2.4>	
企業倒産件数(件)	868	916	263	224	251	234	65	65	104	108	76
(前年同期(月)比)(件)	(69)	(48)	(23)	(1)	(31)	(25)	(▲ 1)	(▲ 3)	(29)	(6)	(▲ 1)
域内外国貿易 純輸出(億円)	99,393	101,373	24,198	29,399	24,505	26,675	9,607	7,557	9,494	8,728	5,947
輸出(億円)	225,311 (6.0)	228,849 (1.6)	55,834 (▲ 0.9)	61,052 (1.2)	58,275 (2.9)	62,615 (13.1)	21,338 (7.8)	18,835 (13.4)	22,440 (18.5)	23,834 (20.7)	19,243 (16.7)
輸入(億円)	125,918 (1.8)	127,476 (1.2)	31,636 (▲ 3.4)	31,653 (▲ 1.5)	33,770 (1.4)	35,940 (16.4)	11,730 (8.9)	11,278 (10.2)	12,946 (31.0)	15,106 (42.7)	13,295 (34.8)

：各指標における直近の数値